

国語ワーキンググループにおける取りまとめ（案）について（一部抜粋）

1 現行学習指導要領の成果と課題

<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「読解力」の平均得点が比較可能な調査以降過去最高に向上した。PISA (2012年) ○ 全国学力・学習状況調査において、小・中学校で言語活動の充実を踏まえた授業改善が図られている。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲ 「伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすること」「複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること」「文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価すること」に課題があることが、全国学力・学習状況調査において明らかになっている。
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

思考力・判断力・表現力等の育成を効果的に図るため、引き続き、言語活動の充実を図ることが必要

2 育成すべき資質・能力を踏まえた教科等目標と評価の在り方について

(1) 教科等の特質に応じ育まれる見方・考え方

【国語科において育むべき「言葉に対する見方・考え方」】

- ① 創造的思考とそれを支える論理的思考の側面
- ② 感性・情緒の側面
- ③ 他者とのコミュニケーションの側面



言葉の働きを捉え、理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを深める。

○ 「言葉に対する見方・考え方」を働かせること＝「言葉と言葉、言葉と対象をつなぐことと、そのつないだ関係性を言葉を通して問い直し、吟味して意味付けることが行われること」

(注) 国語科の本質に根差した「見方・考え方」≠現行学習指導要領にある「ものの見方・考え方(※)」

※ 登場人物や書き手の物事をどのように捉えているか、読者である生徒がどのように考えるかなど

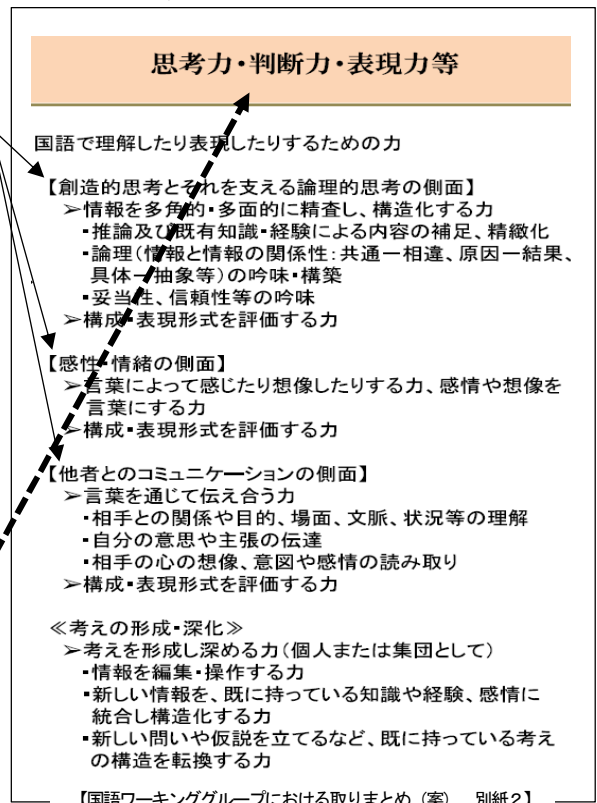
(2) 小学校・中学校・高等学校を通じて育成すべき資質・能力の整理と、教科等目標の在り方

【中学校段階で育成すべき資質・能力】

創造的思考とそれを支える論理的思考の側面、感性・情緒の側面、社会生活における人との関わりから言葉の働きを捉える言葉に対する見方・考え方を働かせ、言語感覚を豊かにし、自分の思いや考えを形成し資質・能力を育成する。

- ① 社会生活に必要な国語の特質について理解し適切に使うことができるようにする。(知識・技能)
- ② 創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い、社会生活における人との関わりの中で、国語で正確に理解したり適切に表現したりするとともに、新たな考えを創造する力を高めるようにする。(思考力・判断力・表現力等)
- ③ 言葉を通じて伝え合う価値を認識するとともに、言語文化に関わり、国語を尊重するようにする。(学びに向かう力、人間性等)

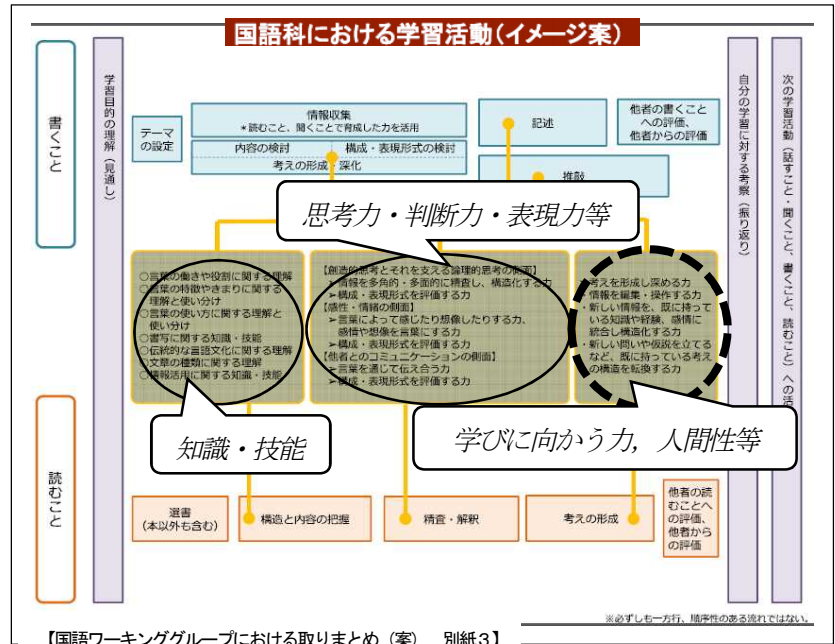
※ 「三つの柱」は相互に関連し合ったものであるため、順序性を持って育成したりするものではない。



(3) 資質・能力を育む学習過程の在り方

◎ 活動を通じて、どのような資質・能力を育成するかを示すため、3領域における学習活動の中で、三つの柱に整理した資質・能力がどのように働いているかを含めて図示された。

- 資質・能力の向上を図るためには、資質能力が働く一連の学習過程をスパイラルに繰り返すとともに、一つ一つの学習活動において資質・能力の育成に応じた言語活動の充実を図る必要がある。
- 一連の学習活動は、必ずしも一方向の流れではなく、ねらいに応じて戻ったり繰り返したりする場合がある。
- 単元を通して「身に付けさせたい力」を育成するのであって、1単位時間の中で、必ずしも単元で育成すべきすべての学習内容を実施する必要はなく、その一部のみ取り扱う場合があること、単元によって軽重を付けて扱う場合がある。
- 「見通し・振り返り」は、学習過程が始まる前と終わった後にそれぞれ行うことに限定するものではない。



【国語ワーキンググループにおける取りまとめ(案) 別紙3】

(4) 「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方(H28. 5. 31 教育課程部会国語ワーキンググループ 別紙4)

- 「目標に準拠した評価」の実質化と教科・校種を越えた共通理解に基づく組織的な取組を促す観点から、観点別評価の観点については資質・能力の三つの柱を踏まえたものとする。
- 観点別評価については、現行の「言語についての知識・理解・技能」がそのまま「知識・技能」に、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」がそのまま「思考力・判断力・表現力等」に関する観点に移行するものではないため、具体的な学習評価の方法や学習評価を子供たちの学びや指導の改善につなげる方策等について、引き続き検討していく。

3 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実

- (1) 科目構成の見直し(※高等学校における見直し)
- (2) 資質・能力の整理と学習過程の在り方を踏まえた教育内容の構造化
- (3) 現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し
(読書活動の充実)、(学年別漢字配当表の見直し)、(伝統文化に関する学習の改善)、
(言葉を取り巻く環境の変化を踏まえた学習の充実)、(他教科等との連携)

4 学習・指導の改善・充実や教材の充実

- (1) 特別支援教育の充実、個に応じた学習の充実
- (2) 「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」に向けた学習・指導の改善・充実
 - 国語科におけるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善とは、アクティブ・ラーニングの視点から言語活動を充実させ、学習過程を質的に改善していくこと。
- (3) 教材の在り方

5 必要な条件整備等について

《「常用漢字表の字体・字形に関する指針(報告)」(平成28年2月29日 一部抜粋)について》

- 手書き文字と印刷文字の表し方には、習慣の違いがあり、一方だけが正しいのではない。
- 字の細部に違いがあっても、その漢字の骨組みが同じであれば、誤っているとはみなされない。

【参考】 ・ 教育課程企画特別部会における論点整理について(報告)平成27年8月26日 教育課程企画特別部会
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm)
・ 教育課程部会 国語ワーキンググループ(第8回) 配付資料 平成28年5月31日
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/068/siryoy/1371887.htm)